

事務事業名		教育魅力化推進事業		所属部	教育委員会	所属課	キャリア教育政策課			
総 計 画 体 系	政策名	(IV)ふるさとを学び育つまち<教育・文化>		所属G	キャリア教育政策G	課長名	工藤松太郎			
	施策名	(26)学校教育の充実		担当者名	福島勇樹	電話番号	0854-40-1074 (内線) 2241			
	目的 対 象	児童・生徒	意 図	基礎基本(知・徳・体)の発達を促し、生き抜く力を身につける。						
	基本事業名	(077)地域力を活かした教育の充実		予算科目	会計	款	大事業 大 事 業 名	教育推進事業		
目的 対 象	児童・生徒	意 図	地域の力を活かして学ぶ。				中事業 中 事 業 名	教育魅力化推進事業		
				0	1	5	0	0	3	
				0	5	1	0	2	9	

1 現状把握【DO】

(1) 事業概要

① 事業期間
<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 ( H28 年度～ )
<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 年度～ 年度 )
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)
○教育魅力化推進会議 多様な委員からご意見を頂戴し教育魅力化アクションプラン等に反映する。 ○各種CN 統括プロデューサー、高校担当の教育魅力化CN、中学校区担当の教育支援CN、放課後学習CNの適切なマネジメントにより社会に開かれた教育課程を実現する。 ○教育フェスタ 多様な主体の連携・協働により地域における教育力を醸成するため、研修・学び合いの場をつくる。

(2) 事務事業の手段・指標

① 主な活動	R元年度実績(R元年度に行った主な活動)	R2年度計画(R2年度に計画する主な活動)				
手 段	○教育魅力化推進会議 3回の会議を開催して第4次提言を基に雲南市教育魅力化アクションプランを策定した。 ○各種CN 統括プロデューサーを核に雲南コミュニティハイスクールコンソーシアムを構築した。高校担当の教育魅力化CNを配置し、地域との協働による高校改革に取り組んだ。 ○教育フェスタ等 共志塾を立ち上げ5回開催した。	○教育魅力化懇話会 教育魅力化推進会議を改め幅広い方々からの多様な意見を聞く場を設ける。 ○各種コーディネーター 中学校区担当の教育支援CNを業務委託方式に改める。 ○教育フェスタ等 具体的な取組に繋がる学び合いの場をつくる。				
	② 活動指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度 (計画)
ア	教育支援コーディネーター数	人	7	7	7	7
イ	高校魅力化コーディネーター数	人	2	5	4	4
ウ						
エ						

(3) 事務事業の目的・指標

目 的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度 (計画)	
	中学生、高校生、教職員、保護者など	ア	中学校生徒数(3年生)	人数	326	345	310	311
		イ	高等学校生徒数(3年生)	人数	265	263	280	249
		ウ						
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	H29年度 (実績)	H30年度 (実績)	R元年度 (実績)	R2年度 (計画)		
雲南市の高校で学びたいと思う中学生、将来は雲南市で住みたい・働きたいと思う高校生が増える。	ア	雲南市の高校への進学率	%	64.3	68.0	63.9	68.0	
	イ	ふるさとが好きな高校3年生の割合	%	90.3	92.7	87.8	90.0	
	ウ	将来雲南市で働きたいと思う高校3年生の割合	%	53.7	54.4	34.3	55.0	

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳(1年度決算)	② コストの推移	単位	H29年度(決算)	H30年度(決算)	R元年度(決算)	R2年度(計画)
報償費 1,186,815円 旅費 110,085円 需用費 318,794円 役務費 62,526円 委託料 16,680,600円 使用料及び賃借料 46,330円	財源内訳	千円	729	2,100	7,483	27,249
	国庫支出金	千円	1,040	2,764	2,915	
	県支出金	千円	8,400	10,500		
	地方債	千円	2,251		8,007	29,863
	その他	千円	710	5,633		
	一般財源	千円	13,130	20,997	18,405	57,112
	事業費計(A)	千円				
	人件費	人	3	3	4	
	正規職員従事人数	時間	720	850	1,100	
	延べ業務時間	千円	2,935	3,682	4,664	
	人件費計(B)	千円	16,065	24,679	23,069	
	トータルコスト(A)+(B)	千円				

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
新学習指導要領をはじめ教育改革の流れや社会情勢の変化のなかで、探究的な学び(PBL型授業)が重要とされ、特に高校に期待される役割が大きくなっている。	高校担当のCNに関して、他地域にみられる常駐型ではない形態で探究学習に特化した役割・配置とすることで、教職員の主体性を損なわず、かつ持続可能な推進体制が構築できつつある。	地域: 中高生の積極的なチャレンジをさらに支援する体制を整えて欲しいといった声がある。 議会: 認定NPOの先駆的な取組に対して評価する声がある。また、高校の教育課程(普通科やコース)をなどの在り方に踏み込んだ議論を早急にすべきという声をいただいている。

事務事業名	教育魅力化推進事業	所属部	教育委員会	所属課	キャリア教育政策課
-------	-----------	-----	-------	-----	-----------

## 2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？		見直し余地があると理由
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合 →	
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？ 税金を投入して達成する目的か？		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である * 余地がある場合 →	
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？ 意図を限定・拡充する必要はないか？		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合 →	
B 有効性	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？		
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない	理由	雲南コミュニティハイスクールコンソーシアムが正式に始動したところであり、高校・地域・県が一体となった取組を進める基盤が整った。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？		
	<input type="checkbox"/> 影響無 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有	理由	類似する事務事業はほかになく、ヒト・モノ・ことをつなぎ、魅力ある教育環境創出をディレクションする人材の配置がなくなることは、極めて大きな影響がある。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？		
	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合 → <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input type="checkbox"/> 他に手段がない	(具体的な手段や類似事業名)	キャリア教育推進事業
	理由	一体的な業務として展開することで、効果的な連携を図ることができるほか、様々な場面でスケールメリットを発揮できる。	
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)		
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由	委託料の大部分が人件費相当であることから、仕様で定める業務の削減を実施しない場合、削減余地は極めて少ない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？		
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある <input type="checkbox"/> 削減余地がない	理由	受託先とのマネジメントライン等の整理により、一定の削減余地はある。
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？		
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由	すべての子どもたちの成長を支えるプログラム提供や伴走支援が中心の業務委託であり、公平・公正である。
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果		② 1次評価結果の総括(根拠と理由)
	A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり C 効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	様々な業務にかかわるコーディネート業務であり、他の事業と重なり合う部分も多いこと、学校との連絡調整等の業務も多いなかで、できるだけ多くの生徒にリーチするための積極的な場づくりが推進でき、着実な成果が見られている。	

## 3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可	② 改革・改善による期待成果																		
<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> <p>廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。</p>		コスト				削減	維持	増加	成果	向上	●		維持		×	低下	×	×
	コスト																		
	削減	維持	増加																
成果	向上	●																	
	維持		×																
	低下	×	×																
<p>地方創生総合戦略や第4次教育基本計画を踏まえ、各種コーディネーターの職制や職責、学校との連携体制の在り方について基本的な方針を示すなかで、適切な業務量を明らかにする。 特に中学校区を担当する教育支援CNに関しては、暫定的な措置としての業務委託方式としたところであり、配置の必要性を含めた議論が必要である。</p>																			